

## みなとピアノによる賑わい創出

室蘭市港湾部 港湾政策課

室蘭港は北海道の南西部に位置し、明治5年の開港以来、明治40年には英国企業との合併で製鋼所が、明治42年には空知地方で採掘した石炭、近隣で採取できる砂鉄を原料に製鉄所が操業してから現在まで製鋼、製鉄を行っており、港を中心に多くの関連企業も立地する「鉄のまち」として発展してきました。

このように臨港部は北海道最大の鉄鋼コンビナートを形成しておりますが、工業港としてだけではなく、フェリー航路(室蘭～八戸)や国際定期コンテナ航路も開設されており、また、大型クルーズ船が接岸できる港湾として、物流、人流などに幅広く利用されています。

室蘭市は、人口密度が北海道内では札幌市に次いで高いうえに、市街化区域(3,608ha)の約3分の1が臨港地区(1,019ha)となっており、市街地と一体の「みなとまち」を形成しているため、みなとの賑わいがまちの活気に直結しています。平成24年に「みなとオアシス室蘭」の認定を受け、「みなと」を核としたまちづくりを推進する中で、この度、「みなとピアノ」を設置して新たな賑わい創出に取り組んでいます。

みなとピアノは、誰もが自由に弾くことのできるストリートピアノとして、閉校した市内小学校音楽室のグランドピアノを室蘭港フェリーターミナルに移設したもので、市民がみなとに親しむ機会を拡大し、ターミナルに人が集まり賑やかな空間になるようにとの思

いが込められています。

構想段階から「みなとまちづくりマイスター」で音楽家でもある「みなとまちづくり女性ネットワーク室蘭」の立野了子代表にアドバイスをいただき、音の反響や景観など細部にもこだわってピアノを配置しています。

4月11日(日)、利用開始を記念してみなとまちづくり女性ネットワーク室蘭の主催で「みなとピアノ設置記念コンサート」を開催しました。国際的なコンクールで受賞歴のあるピアニストをはじめ、地域で活躍されるピアニストがストリートピアノを演奏することで、150名を超えるお客様に会場いただきました。

室蘭港の「みなとピアノ」は、ピアノを弾きながらフェリーなどの船舶や室蘭港に沈む夕陽を眺められるロケーションで「気持ちよく演奏できます。間違えると恥ずかしいため家での練習量が増えました。」や閉校した小学校のある卒業生の方は「学校は無くなってしまったけれど、思い出のピアノに再会できました。」という嬉しい声も寄せられており、家族連れを中心に多くの方が演奏を楽しんでいます。

室蘭港は来年、明治5年(1872年)の開港から150年、大正11年(1922年)の市制施行から100年の節目となりますので、将来への着実な第一歩となるよう、記念イベントのほか各種の取組を継続していきます。

